

# 西光寺だより

第八十三号 平成二九年 七月一日発行

## ●今月のことば●

今月は『恩徳讃』について述べたいと思います。浄土真宗に生きる私たちにとりまして恩徳讃は誰もが一度は聞いたことのある歌であり、お寺での行事や法要の最後に必ずと言ってよいほど歌われる歌であります。聞いたこと、歌ったことはあるけれども、どんな内容なのか？改めて考えてみてはいかがでしょうか。

いつも私たちがお勤めをする正信偈六首引きは、正信偈のあと念仏と和讃のお勤めをするのが常です。その和讃は「和語をもって三宝(仏・法・僧)を讃嘆する詩」で、親鸞聖人作の和讃は五百首余りあり、特にその中で『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃(しようぞうまつわさん)』をまとめて「三帖和讃」といいます。

恩徳讃とは、『正像末和讃』に書かれているお言葉で、節をつけて歌われたものであります。

**如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も骨をくだきても謝すべし**

### 【意訳】

阿弥陀如来よりいただいた大悲のご恩はかえしきれないご恩です

身を粉にする思いで報じましょう

釈尊をはじめとして教法をお勧めくださった善き先師の人々のご恩も、

骨をくだく思いで感謝しましょう

恩徳讃の恩徳とは、恩も徳も同じ意味で、ご恩のことです。恩のことを歌の形で教えられたのが、恩徳讃です。私たちは、いろいろな人から恩を受けて生きていますが、恩徳讃では、どなたからの恩について教えられているの

かという、如来大悲(によらいだいひ)と師主知識(ししゅちしき)のご恩です。

如来大悲とは、如来とは阿弥陀如来、大悲とは大慈悲ですから、阿弥陀如来の大慈悲のことです。愚かな私を見捨てることなく、いつでも自分の悲しみとしてくださるお心であります。いつも寄り添い、我にまかせよと、はたらかし続けておられます。如来の慈悲につつまれて、浄土への道を歩ませてください。

阿弥陀如来の大慈悲を教えられたお釈迦さまの教えを聞いて、本当の幸せになった人は、如来大悲に、深くご恩を感じるようになります。それが「身を粉にしても報ずべし」です。

師主知識とは、師主も知識も同じ意味で、七高僧などお導きくださる先師すべてを言います。どれだけ素晴らしいものがあつたとしても、それを伝えてくれる人がいなければ、知ることではできません。素晴らしいものを知ることができれば、それを伝えてくれた人に感謝の心が起きてきます。如来大悲を伝えて下された七高僧などの先師のご恩も深く知らされ、「骨を砕きても謝すべし」と言われています。

身を粉にするとか骨を砕きてもということとは、出来ないことです。親鸞聖人は、阿弥陀如来と祖師方の為なら、身が粉々になっても、骨が砕かれても構わないと言えるほどの恩を、本気で感じておられました。感謝のご恩をこのような表現で伝えたかった思いに、この詩の深さを感じることでもあります。その恩徳讃を通して、いつでもどこにいても阿弥陀如来の大慈悲の光に包まれている私たちであります。感謝の気持ちをお忘れず、ありがとうございますと、お念仏申す人生をこれからも送らせていただきたいと思います。合掌

## ◆先月の報告◆

①六月十五日(木)～十六日(金)にかけて茨木東組聖跡巡拝バス旅行に西光寺から三名のご門徒さんと参加致しました。お天気に恵まれて、茨木東組総勢二十九名のご住職・ご門徒の方々と一緒に行つて参りました。伊勢方面ということもあり、すぐに伊勢神宮を思い出される方が多い中、伊勢神宮に



大王崎灯台前にて。



伊勢教堂で参拝し、御法話を頂きました。



はお参りせず、本願寺・伊勢教堂にお参りしました。その後ホテルに宿泊し、宴会で皆さんと懇親を深めながら楽しくお酒をいただきました。また大王崎灯台・海女さんによる海鮮バーベキューなど、楽しい時間を過ごさせていただきました。ご参加いただきました細川さん、吉田さん、村山さん、本当にありがとうございました。



海女さんとの貴重な体験でした。



②前回ご報告させていただきました、西光寺駐車場の補強工事が無事に終了致しました。皆様のおかげでできましたこと、西光寺だよりにてご報告させていただきます。ありがとうございました。それと工事をしていただきました辻博建設様、ありがとうございました。

### ◆七・八月の行事◆

・八月 十五日 (金)

孟蘭盆会法要

午後六時〜

西光寺本堂

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>